



NHKの特派員として海外から日本にニュースを送り続けてきた手嶋龍一さんに、雑多な情報が流れる現代社会において、どのように立ち振る舞うべきかを聞いた。写真=藤原敦子、唐澤光也、Bloomberg 取材・文=本誌編集部(熊谷久美子)

Ryuichi Teshima
外交ジャーナリスト

重要な海外の投資情報は
イチローのニュースほど
簡単に手に入らない。
自分仕様の情報入手の工夫を！

手

嶋

龍

メディアは使いこなすもの。
ニュース価値の見立ては
しばしば間違っている

——長年にわたって海外から日本へ情報を伝え続けてきた手嶋さんから見た今の情報社会の姿とは。手嶋 グローバルなニュース報道をめぐる環境はここ4半世紀で様変わりしました。私が初めてワシ

ントン特派員として赴任した冷戦の末期は、ベルリンの壁の崩壊など世界を揺るがす大事件が相次ぎました。ワシントン発のニュースはそれなりの重みで日本の視聴者には受け取られていました。でも、昨今のように人々の反応がビビッドに伝わってくるようなことはありませんでした。理由は単純にし

て明快です。いまや、日本の茶の間がニューヨークと分かちがたく結びついているからです。

貴重な資産を守るために
正確な情報が必要

ニューヨークで株や為替が下がれば、日本の相場も下げ、人々の仕事や資産運用に直ちに影響がで



世界中を旅し書き続けてきた長編ドキュメント小説『ウルトラ・ダラー』『スギハラ・ダラー』は合計40万部のベストセラーに。「スギハラ・ダラー」には人民元の変動相場制移行が示唆されている。

るのです。錯綜したニュースが飛び交う中で、本当に役立つ情報を手に入れるにはどうすればいいのか。とりわけ、個人投資家にとっては、貴重な資産を守るためにも重要です。投資家は、大切な資金を投じる時、「決断」をしなければなりません。判断を誤れば、損はわが身に跳ね返ってきます。

——メディアが提供する情報を受け取る際には、どんなことに留意すべきでしょうか。手嶋 メディアは使いこなすものであり、頭から信じるものではないです。とりわけ日本のメディアは、誰のために情報を提供するかという姿勢が必ずしも一貫していません。イチロー選手が大リーグに移籍した時のことでした。視聴者は大リーグで活躍するイチローの雄姿をテレビで見たいと望み

手嶋 そう思います。個々のニュースをどれだけの重みで扱うか。その判断の基準が官僚寄りだったり、メディアの仲間内のものであったりするケースをよく見かけます。日本を代表する企業、トヨタ自動車のリコールを伝えるニュースは、当初、日本ではトップでは扱われ

手嶋龍一さん

Ryuichi Teshima

1949年北海道生まれ。元NHKワシントン支局長。9.11テロ事件では11日間連続の中継放送を担った。05年夏に独立し、外交ジャーナリスト・作家に。全世界に張り巡らされた人脈と取材力は他の追随を許さず、東アジアのインテリジェンス・マスターの呼び声が高い。

大リーグで活躍するイチローの雄姿が見られるのは視聴者のニーズを考えれば当然のこと。



各自が正しい「決断」を下すためには、正確な情報に依拠していなければなりません。ところが、メディアや市場には雑多な情報が溢れています。それら情報の海から、投資の決断に役立つような情報を選び分け、その真贋を確かめ、分析して、情報の深い意味を読み抜かなければなりません。こうした手順を踏んでこそ、インフォメ

ーションは初めてインテリジェンスに高められていくのです。個々のニュースでは、さして意味がなくても、この二つをつなぎ合わせてみると、違った意味を帯び

——読者や視聴者のニーズに忠実でない傾向はいまも日本のメディアに見受けられるのでしょうか。手嶋 読者や視聴者のニーズを考えると、違つた意味を帯び



役に立つ情報だけを選び抜く
感覚を磨くために
投資の失敗も無駄ではない

ませんでした。北米大陸でのトヨタの存在感の大きさを考えれば、明らかに判断を誤っていました。

昨年、中国人民銀行の周小川総裁が基軸通貨である米ドルに関する論文を発表しましたが、この重要ニュースも日本のメディアは当初、ほとんど扱おうとしませんでした。米ドル資産の最大の債権者である中国が、人民元の切り上げやドルの今後をどう考えているかを読むのに格好の材料だったはずなのですが。果たして、国際社会のステークホルダー（利害関係者）は、この周論文を巡って議論を繰り広げましたが、日本人は議論に加わることはできません。

日本のメディアが伝えるニュースだけに頼っていると、情報を活用して投資の決断をする個人投資家は、大きなチャンスを逃してしまいます。ですから個人投資家は個々のニュースの重みを自分なりに判断しなければなりません。そう、自分なりのインテリジェンス感覚を磨き、決断の技を磨いてください。誰しも、株やFXの取引で損をしたことがあるはずですが、

なぜ見通しをあやまったのか。それを見極めることができれば、多少の損はコストと考えるべきです。

信頼できるジャーナリストを見つけてもらうことも大事

——日本のメディア以外から情報を得るのは簡単ではないと思うのですがどうすればいいでしょうか。手嶋 工夫すれば方法はありますよ。たとえば、英国の「フィナンシャル・タイムズ」紙や「エコノミスト」誌は、各国の投資家が必ず目を通しています。英語で読みこなすのはちょっとと思われる人は、「JBプレス」というサイトに行ってみてください。日本語で主要な記事を読むことができます。

ただ、良い素材を手にしても、それらを吟味して、料理するのは、個人投資家の腕にかかっています。日頃から信頼するメディアやジャーナリストを見つけておくことが大切です。そして継続して彼らの情報発信を追い続けてください。そうするうちに、一級のジャーナリストが、皆さんの私設特派員になるでしょう。私はロンドンの親

選り抜かれた インテリジェンスは 近未来を指し示す力も

を伝える海外特派員のほんのわずかな違いも聞き分けられるのです。まさしく私設特派員の好例です。——手嶋さんが日ごろからチェックしているメディアを具体的に教えてくださいませんか。

手嶋 情報の手の内をさらされてくるといって厳しい質問ですね（笑）。よくそうした質問を受けるのですが、僕の場合はお答えしても、あまり参考になりませんよ。というのも、僕はひどくものごさな性格で、最小の努力で最大の成果を目論むタイプで、専ら自分の勘と少数の信頼できる友人に情勢判断を頼っているからです。一方で「ニュースのおじさん」こと池上彰さんは、自宅に7〜8種類の新聞を取って毎朝目を通すそうで

情報は使う人によって表情を変える。個々のメディアに惑わされず独自のスタイルを求めて欲しい

日本語訳があるサイトで 海外ニュースをキャッチ

日本の新聞やテレビニュースだけでなく、世界の投資家が必ず目を通すとも言われる、英国の「フィナンシャル・タイムズ」紙や「エコノミスト」誌も読んでおきたいもの。英語が苦手という方であっても、「JBプレス（日本ビジネスプレス）」というサイトならば、これらの海外のメディアの主要ニュースが無料で日本語訳で読める。英「フィナンシャル・タイムズ」紙は毎日2本、「エコノミスト」誌は毎週5本の記事がタイムリーに日本語訳され掲載されている。

JBプレス <http://jbpress.ismedia.jp/>



す。それぞれの独自のスタイルがあるのです。イチローも全ての球に手を出すわけではなく、これはという狙い定めた処に来る球を待ち受けている。個人投資家の皆さんにも、イチローのような切れ味のいい決断をしてほしい。

思い込みや常識を取り除いて正確な判断を！

情報の世界では、皆さんが王様なのです。どんな権威がある新聞も、的中率を誇るシンクタンクも、皆さんのお役に立たなければ、何の意味もありません。一日も早く、自分の投資スタイルを確立し、それにふさわしい情報収集のサイクルを確立してください。そうすれば必ずダイヤモンドの原石を見つけ出す手法が見つかるでしょう。インテリジェンスには、近未来を見通す力が宿っています。それは、「思い込み」や「常識」という名のノイズを取り除き、近未来から聞こえてくるシグナルを正確に聞き分ける力も秘めているはずですが、

個人投資家は情報を 自分で選択し決定できる 王様なのです



多くの投資家がトヨタ株を持っていることを考えれば、トヨタのニュースの扱いの小ささには疑問。また世界で「お祭り騒ぎ」になった周論文に対する論争にも加われず…。